

した。当県木連は、鹿児島県の林産県としての立場で県等の助力のもと、出展が決定した訳ですが、この「住宅祭」に対しては、後援で建設業者登録のない団体という事で、他メーカーとは異なった参加方法となりました。当然県住宅供給公社の妙円寺団地建築工事の発注は傘下の指定業者への発注であり極めて変則的な立場での対応が必要となりました。このような状態では、祭の運営に迷惑をおよぼすことが大いに危惧されましたので、責任の所在をハッキリと打ち出し、財団、公社関係は県木連、直接の工事は各業者という具合で、財団、公社の会議のつど議事録を作成し、傘下業者と協議を行い、密接に連携をとってきました。わが業者（三社）はこの住宅祭の意義を十分に理解し、取組みが真険で我々の要請に対し非常に協力的であり私個人としても気楽に協力を仰ぐ事ができました。

会場入口のゲートも三社の協力なしでは出来なかつたもので祭にかかせないものとして感謝しています。初めての経験でもあるこの「住宅祭」に直接たずさわった者として、反省を含めて感じた事をのべてみたいと思います。

まず第一に財団の「住宅祭」の主旨と県公社の公的機関の分譲住宅としての見解の相違による工程管理、事務処理の煩雑等が生じ、対策に苦慮した。第二に工程写真の提出義務が強く要

求されました、場合によって「工程見学会」対策としての工事の停滞や突貫等通常工程を無視した要求を行い現場担当者に非常な労力を強いた。

第三に祭予算においてぎりぎりの予算計上の為、途中における費用負担が発生し、対応に参加メーカー間に協調性に欠けるような事があった。

第四に祭そのものの計画に、その地域における年間を通した気象条件等を考慮して計画を推進して欲しい（梅雨台風等）。

以上感じたことですが、我々未熟な者の反省をこめて今後の運営に何らか



## 住宅祭と地域特性

南日本新聞社取締役 橋本博臣

の参考になれば幸いです。

最後に――全ての申請業務等を処理され、我々メーカーの対応の悪さや、書類等の不備等に対し、取りまとめをして頂いた公社本部、及び現場担当者の方、また各メーカーの現場責任者等の諸々の苦勞に対し謝意を表すと共に私自身地元参加者として今後ありえないであろう貴重な体験をさせて頂き感謝しております。

今後住宅生産振興財団が各地に全国的な規模で住宅祭を開催されこの鹿児島妙円寺団地を踏台としてより飛躍されることを祈念致します。

鹿児島県・伊集院妙円寺団地住宅祭の企画が、電通本社を通じて、南日本新聞社に持ち込まれた時には正直言つて、皆目、事業のイメージが浮かんでこなかった。住宅生産振興財団の性格も、すんなりには理解できなかった。

といつても言い過ぎでない感じであった。その上、当社が主催に加わることに対し財団側が期待している点と、当社の持ち合わせているノウハウや陣容・能力にかなりのギャップがあったよ

うでもある。

話はピンポン球のように、互に実務者の間を行ったり来たりして、少しずつ理解を深めながら「鹿児島県なり」の住宅祭のありようを探っていき、実際にこれにかなりの時間を要したようだ。

「鹿児島県なり」とことわつたのは、このような催事一つにも地域特性が反映しているのを感じたからだ。地元のおわれれが感じるのだから他地区と比較しながら見ている財団関係者は一

★出展住宅前の表示パネル



層痛切であったと思われる。

催事のソフトウェアには、他地区の前例は殆んど意味をなさない。主催者を決めるだけでも、地域の特性がからんでくる。地元二つの新聞社、二つの民放局がある鹿児島の場合、どう組合せるか、だけでも難作業である。地元の関連業者（在来工法）との調整も大きなポイントだが、メーカーとの力関係もその土地によって違いがあるしまた選択にも細心の配慮が必要のようである。

住宅祭の具体的な設計（ハード面）になってくると一層、地域特性の影響を受けることになる。鹿児島の場合、その開催地を鹿児島市中心部から二五キロ離れた伊集院町に選んだが、これ